

公的機関による試験項目と評価

試験項目	試験方法	評価基準
品質試験	JIS A 6909:2003	各試験項目の規格基準
日反射率試験	JIS K 5602:2008	日射反射率が明度以上
引張性能試験	JIS A 6021:2000に準ずる	破断に至るまでの最大引張力
伸縮性試験	JIS A 6021:2000に準ずる	破断時の伸び率
付着強さ試験	JIS K 6909:2003	0.5N/mm ² 以上
促進耐候性試験	JIS K5400:1990	サンシャインカーボンアーク灯式
ホルムアルデヒド放散量試験	JIS K 5601-1-4-1:2003	塗料製品規格放散量0.12mg/L以下
透湿性試験	JIS Z 0208:1976	防湿包装材料の透湿度試験
耐酸性試験	JIS K 5600-6-1:1999	5w/v%硫酸:7日間
耐アルカリ性試験	JIS K 5600-6-1:1999	5w/v%水酸化ナトリウム:7日間
耐中性塩水噴霧性試験	JIS K 5600-6-1:1999	塗膜の長期耐久性・耐中性塩水噴霧性
防火材料の発熱性試験	ISO5600 Pert1準拠 不燃材料	総発熱量8MJ/m ² 以下・200k超過継続時間10sec以下

キルコート評価	キルコート評価内容	試験機関
すべての項目で規格基準をクリア	建築用仕上塗材 薄付仕上塗材 外装薄塗材	(財)日本塗料検査協会
全ての基準色が規格基準をクリア	新JIS規格対応済み	(財)日本塗料検査協会
0.675N/mm ²	n3平均	(財)日本塗料検査協会
317%	n3平均 常時200%以上の伸び率	(財)日本塗料検査協会
1.5N/mm ²	規格の3倍以上の付着力	(財)日本塗料検査協会
4000時間割れ膨れ剥がれを認めない。白亜化の等級1	耐久性能15年相当	(財)日本塗料検査協会
0.06mg/L	放散等級区分【F☆☆☆☆】	(財)日本塗料検査協会
44.0g/m ² ・24h	n3平均	(財)日本塗料検査協会
さび、割れ及び剥がれを認めない	PH . 2~7	(財)日本塗料検査協会
さび、割れ及び剥がれを認めない	PH . 7~11	(財)日本塗料検査協会
2000時間さび、割れ及び剥がれを認めない		(財)日本塗料検査協会
総発熱量5.55MJ/m ² ・200k超過継続時間8.4sec	不燃材料としての基準をクリア	㈱AFS

PICK UP THE TEST REPORT

促進対候性試験結果

試験用基盤:溶融亜鉛メッキ板

試験時間	塗膜のみ観	白亜化等級	付着強さN/mm ²
1000時間	割れ膨れはがれを認めない	等級1	1.6
2000時間	割れ膨れはがれを認めない	等級1	-
4000時間	割れ膨れはがれを認めない	等級1	2.4

促進対候性試験(4000時間)に対し良好な品質安定性を維持していると言えます。(白亜化等級1:極めてわずかな白亜化で、手に付着しない程度)

この試験方法は、1000時間に対し自然条件で3年間を目安にしたものです。この試験結果により15~20年の長期間に渡り良好な品質を維持できると言えます。
(参考値であり、保証するものではありません)

引張性伸縮性試験結果

引張性能:23℃

試験体No.	最大引張力(N)	引張強(N/mm ²)	破断時伸縮率(%)
1	459	0.660	249
2	459	0.686	370
3	459	0.679	334
n3平均		0.675	317

この試験方法は、建築用塗膜防水材:アクリルゴム系試験方法で引張強さは常時0.6N/mm²以上、伸率は常時200%以上有していると言えます。この試験結果により建物の揺れやクラックに追従し、雨漏り、水漏れ対策にも応用可能です。
(参考値であり、保証するものではありません)

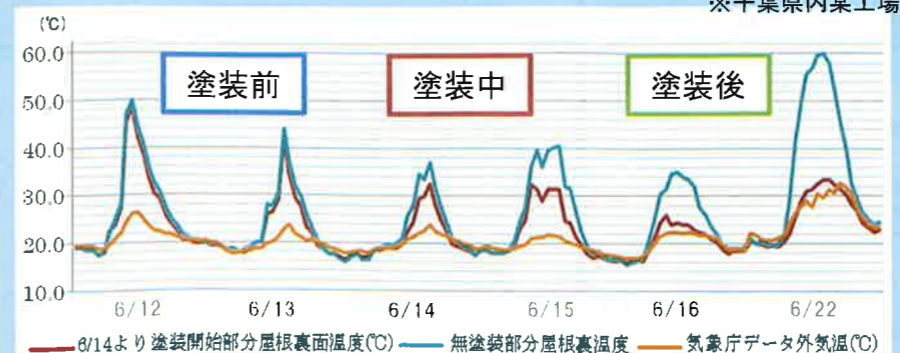
キルコート実証実験



夏季施工実績

キルコートの塗装が予定されている折板屋根裏面と、塗装予定のない屋根へ同様に温度センサーを設置。塗布後最大で26度の差が生まれた。

※千葉県内某工場



環境技術実証事業

ETV 環境省
http://www.env.go.jp/policy/etv/
実証番号051-0958

[環境事業実証事業]とは、普及が進んでない先進的環境技術について、その環境保全活動等を第三者機関が客観的に実証する事業で【キルコート】はこの実証事業の[ヒートアイランド対策技術分野]にて、実証されています。